

4,031,338 円の寄附金をいただきました

2007 年度はみやぎ生活協同組合から 2,995,258 円、協同組合日専連仙台から 1,036,080 円の寄付をいただきました。

MELON を支えている協同組合のうち、みやぎ生活協同組合と協同組合日専連仙台・日専連ライフサービスでは「MELON 協力商品券」を販売しています。この商品券の利用額の一部が MELON に寄付され、皆さんの日常のお買い物行動から環境を守る活動に役立つ仕組みが作られています。

みなさんもぜひ積極的に「COOP MELON 商品券」「日専連 MELON 協力商品券」をご利用ください。宮城県内のほとんどの専門店、大型店でご利用いただけます。また、贈答にもご利用いただけます。ご用命はみやぎ生協各店舗または日専連仙台・日専連ライフサービスまで。



タメトモよくやしいか

なにしろ、海は越えるわ、山奥まで侵入し、ときには空だって飛んでくる。いろんなところに出没し、生活し、そして去っていったりする。その気ままさに普段は気がつかない。気がつきようがありません、『気ままさ』が人間の進歩だと信じこんでいますから。でも、こんな気ままな人間につきあったりする動物がいれば（動物が「オレつきあうよっ！」などと言ったりはしないのですが）、その『気ままさ』の犠牲なることだってあるのです。

ネコやイヌ、ヤギなど、ほら、デパートで売っているカブトムシだってそうです。飼い主の人間がいなくなれば、ノネコやノラネコ、ノヤギになり、ノカブトムシ・・・というかどうかは分かりませんが、そうすれば生きていくために、じぶんたちのグループをある程度増やしていかなければいけないし、食べ物も必要になってきます。なにしろ、ネコが「畑を耕し、種をまいたり」イヌが「クンセイを作ったり」ヤギが「乳製品の加工」や「産児制限」をしたなんて聞いたことがありません。その辺にあるものを食べるだけです。

人間が住まなくなった八丈小島に取り残されたヤギたちが増え続け、草木を食い荒らし、がけくずれなどを引き起こしているということで問題になったことがあります。「捕まえて食べてしまえ」などと言う人もいました。「風になったヤギ」（漆原智良 さく 横松桃子 絵、旺文社、2006 年重版）はヤギから見たこの勝手な人間の『生態』です。「タメトモ」などといういかめしい名前のヤギが出てきますが、学校では教えられないその人たちの言い伝えの物語を調べてみると、この話しはいつそう楽しめるでしょう。

さて、このものがたりには緩急があり緊張・弛緩があるのでそれをうまく読み取りましょう。もし、うまく話したいと思うなら、ときどき落語や講談など日本の昔からの話芸をまねて口にしてみればいいのです。

